

## 食品分析ニュース

ユーロフィン・フードアンドプロダクト・テストング株式会社では、海外(おもにEU)の法規情報や最新分析情報を中心としたニュースレターを発行しています。輸出入に関連した違反事例などの情報や、海外における食品分析の動向や食品スキャンダルまで、皆様のお役にたてるニュースレター作りを目指します。

### Contents

- [特集: 欧州のアクリルアミド濃度は危険なほど高い\(EUより\)](#)
- [\[EU マイコトキシンのレベルが上昇\]](#)
- [\[日本 ホームページがリニューアルされます\]](#)

### 【特集: 欧州のアクリルアミド濃度は危険なほど高い(EUより)】



欧州食品安全機関(EFSA)が公表した以前には見られなかったデータを分析したNGOは、ヨーロッパのアクリルアミド濃度は依然として危険なほど高いと主張しています。報告書「食品中のアクリルアミド: ホットポテトを渡す」の分析は、非営利団体SumofUsとChanging Marketsによって共同でまとめられています。2007年から2014年にかけて25,000件以上の食品サンプルからのアクリルアミドデータがEFSAに提出され、先月の書類要求へのアクセス後にChanging Marketsに引き渡されました。

#### かつてヨーロッパには発がん性物質があった

アクリルアミドは発がん物質であり、2015年にEFSAは、すべての年齢層の人々にアクリルアミドががんのリスクを増加させると以前の科学的意見を述べました。2006年以来、ヨーロッパの食品業界は食品中のアクリルアミドを自発的に削減するためのベストプラクティスのコード”ツールボックス: 自主行動基準”を使用してきました。これらの自主行動基準の有効性を監視するために、欧州委員会は加盟国が食品中のアクリルアミドについて定期的に検査することを推奨していますが、この勧告は法的拘束力を持っていません。これに加えて、欧州委員会はまた、異なる食品群におけるアクリルアミド濃度の指標値の範囲を設定しています。ここでも、これらの指標値は法的拘束力を持たず、ベンチマークレベルとして使用され、食品製造業者が実施基準を適用した程度を評価することを意図しています。今年1月、デンマークはアクリルアミドの指標レベルを引き下げ、EUガイダンス水準が消費者を十分に保護しないと主張しました。

ポテトチップスやスナック、鮮明なパン、ビスケット、クラッカーのアクリルアミド濃度は若干低下する傾向がありますが、フレンチフライ、ジンジャーブレッド、ローストコーヒーのアクリルアミド濃度は変わらず、また増加しています。サンプリングされた食品の約12%は、SumOfUsの報告書によると「許容できないほど高い」とされているEUの指標レベルを上回っていました。最も高いアクリルアミド濃度は、ベルギーのインスタントコーヒーとデンマークのフライドポテトのサンプルでした。1kg当たり38,000  $\mu$ gと7,900  $\mu$ gで、これらは現在のEU指標レベルよりも42倍および13倍高い値です。SumOfUsは、欧州委員会がリーダーシップを示し、最大限の制限を設ける必要があると述べています。



「これは、EU法が食品中の他の汚染物質を扱う方法であり、最も脆弱な消費者を確実に保護する最善の方法です」とSumOfUsのディレクター、Paul Ferrisは述べています。

### 《アクリルアミド試験》国内で分析が可能です

実施:国内ラボ(※海外に関してはお問い合わせください)

必要検体量:100g以上

納期:5営業日(検体が分析ラボへ到着後)

価格:お問い合わせください



### 【EU マイコトキシンのレベルが上昇】

新しい調査によると、英国とアイルランドの小麦中のマイコトキシンのレベルは、過去2年間で増加しています。2016 Nutriad Mycotoxin Surveyは、英国およびアイルランド全土からの66のサンプルを対象としており、動物生産用の農産物で最も頻繁に見られる8種のマイコトキシンの発生をテストするために500以上の分析が行われています。

この調査では、アフラトキシンB1(AFB1)、ゼアラレノン(ZEN)、デオキシニバレノール(DON)、T-2トキシン、HT-2トキシン、フモニシンB1(FB1)、フモニシンB2(FB2)およびオクラトキシンA(OTA)のマイコトキシンが実施され、すべてのサンプルは小麦でした。結果は、小麦サンプルの64%がDONで汚染されており、サンプルのいずれもAFB1またはFB1を含まないことを示しました。回収された全てのマイコトキシンの平均濃度は中程度でしたが、一方のサンプルで検出されたDONの最高濃度は1,100  $\mu\text{g}/\text{kg}$ に達していました。サンプルの12.3%は家禽にとって極めて毒性の高いマイコトキシンであるHT-2トキシンを含んでいましたが、その最大濃度は32.2  $\mu\text{g}/\text{kg}$ に過ぎず、無視できるものとみなされています。

1サンプルのみがFB2およびOTAで汚染されていました。その結果、小麦サンプルの15%がZENで汚染されており、1つのサンプルで検出された最大濃度は810  $\mu\text{g}/\text{kg}$ に達しました。

Nutriadは、EUのアクションレベルを下回っているにもかかわらず、今年の英国とアイルランドの小麦作物は、慎重さが必要だとしています。Nutriadの事業開発マネージャーであるRadka Borutovaは、「動物飼料の穀類は多くの源やヨーロッパの大陸穀類に由来し、2016年に収穫された南米大豆は中～高濃度のマイコトキシンに汚染されていることが示されているため、常に注意が必要です」と言っています。 <http://www.globalmeatnews.com/>

### 《マイコトキシン試験》国内で分析可能です

実施:国内ラボおよびドイツラボ

必要検体量:100g以上

納期:7営業日(検体が分析ラボへ到着後)

価格:お問い合わせください

### 【日本 ホームページがリニューアルされます】

Eurofinsのホームページがリニューアルされます。

新アドレスは、こちらになります。

<http://www.eurofins.co.jp/>



環境分析 環境コンサル 食品分析 製品分析 その他

お問い合わせ 検索 会社概要 採用情報 各国の拠所 法人様向け

